

あいち農産物生産流通レポート

平成19年10月号

情報サロン		
・「日本全国野菜・くだものフェア2007」で愛知産農産物をPR！	----- (東京事務所)	1
地域トピックス		
・豊橋特産「次郎柿」を海外見本市に出品しました	----- (東三河農林水産事務所)	2
東日本情報		
・輸入切花の動向	----- (東京事務所)	3
西日本情報	-----	5
・栄のもちの木広場で愛知の農産物のPR・販売を実施	(食育推進課)	
フラワーページ		
・育種への挑戦、行き着くところまでやってみたい	----- (稲長園芸 稲垣長太郎)	7
青 果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・名古屋・東京市場における青果物の10月の見通し	-----	9
花 き		
・切花・鉢花の10月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2007年7月)	-----	25
関連指数	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ
愛知県農林水産部食育推進課

(03)-5492-5400
(052)-954-6417

「日本全国野菜・くだものフェア2007」で愛知産農産物をPR！

平成19年9月8日(土)～9日(日)に、野菜やくだもの食事バランスの大切さを楽しく実感してもらうイベントとして、東京国際フォーラム(東京都千代田区)で開催された「日本全国野菜・くだものフェア」にJAグループや企業等37団体が出展し、家族連れやカップルを中心に約1万8千人が来場しました。

(主催：青果物健康推進委員会、果物のある食生活推進全国協議会)

会場では食生活ジャーナリストの岸朝子さんを始め、料理研究家、野菜ソムリエの資格をもつタレントの「朝ごはん」をキーワードにしたトークショーのほか、栄養士による食事バランスのチェックとカウンセリングのコーナーや、各企業の提案する野菜・果物料理の試食「楽試味(たのしみ)」コーナーなどの催しが行われました。



巨大な食事バランスガイド

JAあいち経済連は、「いちじく」、「大葉」、「ハウスみかん(みはまっこグリーンハウス)」の展示及び試食を行いました。

試食した一般消費者の感想は次のとおりです。

いちじく

- ・ 懐かしい。こんなに甘いものは初めて食べた。食感も良く、とても美味しい。
- ・ スーパーでは高くてなかなか手が出ないし、甘さも当たりはずれの差が激しい。
- ・ 初めて食べる。生で食べられるとは知らなかった。

大葉(大葉ジュースの試飲)

- ・ 青じそのジュースは初めて飲んだが、さっぱりして美味しい。自宅でも作ってみる。
- ・ 大葉は自宅で作っているが、虫が付いてしまい展示品のように綺麗にできない。
- ・ 香りがすばらしい。リーフレットの料理を試したい。

みはまっこグリーンハウス

- ・ 見た目は緑でも甘くて驚いた。
- ・ 味がしっかりしていて美味しい。ぜひ購入したい。



会場内の様子



JAあいち経済連の展示

いちじくや大葉はスーパーでよく見るとの声でしたが、愛知県が日本一の産地ということ全くといっていいほど知られていませんでした。

特に、いちじくについては、「いちじく大好き」という女性の多くは、ほとんどが「産地までは気にしていない」様子でした。品質に対する消費者の高い評価と愛知県の産地名とを結びつけるようなPRが必要だと思われます。

豊橋特産「次郎柿」を海外見本市に出品しました

「豊橋田原広域農業推進会議」（構成：豊橋市、田原市、ＪＡ豊橋、ＪＡ愛知みなみ）は、９月５日～７日までタイのバンコクで開催された海外見本市「アジアフルーツ・ロジスティカ２００７」に豊橋特産の次郎柿を出品しました。

フルーツ・ロジスティカは、毎年ドイツ・ベルリンで開催されている生鮮野菜と果物、青果物の包装、運搬、保管などの物流に関する国際専門見本市で、今回はアジアをターゲットとしてアジア地域で初めて開催されました。バンコク市内のクィーンシリキット ナショナルコンベンションセンターを会場に、（独）日本貿易振興機構（ジェトロ）が設置した日本パビリオン内に、豊橋の次郎柿のほか、青森のりんご、静岡のメロンなど日本の特産品が出品されました。

出品した柿は、豊橋市内で栽培されたハウス次郎柿で、試食したバイヤーなどから、シャキッとした歯ごたえと、噛むほどに深みのある甘さに非常に高い評価を得ました。また、次郎柿の四角い形に興味を示すバイヤーが多く、「これは箱に入れて作ったのか」といった質問もあり、新しい販路拡大につながる機会となりました。



会場の様子



「次郎柿」

海外PR用パンフレット



「輸入切花の動向」

近年、輸入切花の入荷が増加している。安定した入荷に加え、品質の向上が著しく、国内産地との競合一層激化することが懸念される。そこで、切花の輸入業者から聞き取りを行い、最近の動向について調査した。

1 近年の輸入切花の動向

昨年の生鮮切花の輸入は、財務省貿易統計によると、数量で34,111トン、金額で26,260億円であった。3年前の2003年と比較すると、数量・金額ともに約40%以上の増加となっている。

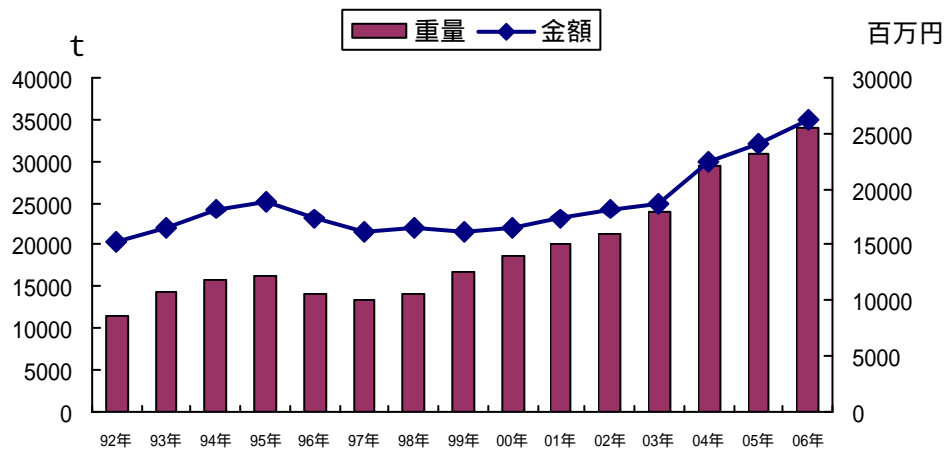
品目別に見ると、以前は、東南アジア方面からのラン切花などが輸入の中心であったが、最近では、キク属（対2003年数量比87%増）、カーネーション（同87%増）、バラ（同47%増）が大幅に増加している。特に増加の著しい国としては、キク属ではマレーシア・ベトナム・中国、バラではエクアドル・コロンビア、カーネーションでは中国・ベトナムがあげられる。



エクアドル産バラ

この増加傾向は今年になっても続いており、農林水産省輸入農産物統計によると、1～6月の累計を昨年の同期間と比較して、数量で約5%、金額でも約10%上回っている。

輸入切花の推移



出典：財務省の貿易統計

2 花き輸入業者から聞き取った内容

1977年から東京都内で事業を行っている輸入業者から聞き取った内容は次のとおりです。

事業開始当時は、デンファレくらいしかなく、ニッチ（隙間）的な花を扱っていた。

最近では、キク属、バラ、カーネーションが大きなウエートを占めるようになってきている。当初、バラは日持ちしないので伸びないと考えていたが、鮮度保持技術の向上、品種改良、輸送方法の変更(立て箱輸送)により急増している。



市場における輸入バラの展示

<マレーシア>

輪ギク、小ギクは輸入していないが、スプレーギクが伸びている。

マレーシアは気候条件が良く周年栽培が可能であり、水、土壌などの栽培条件がそろっている。しかし、航空運賃の高騰、マレーシアの労働者不足による人件費高騰、相場次第で野菜など他の品目に転換してしまう可能性(信頼できる産地ではない)などの懸念がある。

このため、現地法人を設立し、良いものだけを日本へ送る手はずを整えている。

<中国>

以下の点が懸念材料となるので、積極的には取引を行っていない。

- ・英語が通じない
- ・切り花輸入の会社は手を出しておらず、仲卸がギャンブル的に行っている。
- ・周年栽培のできない地域が多いことと、それが可能な雲南では輸送コストが高い。また、南の方は害虫が多く、栽培が難しい。

現在、取引のある全国120社の卸売会社には、成田空港に隣接する選花場で切り戻し、水あげ、選別を行ってから出荷している。

出荷先のほとんどが卸売市場で、市場をバッファーとして活用しており、できるだけセリより相対取引になるようにしてもらっている。通常は相対が6割だが、母の日などの「もの日」はこれより増える(相対は価格が安くなるかもしれないが、仕入れコストが決まっているので、損をしないようにして利益を出している)。

現在、年間販売量の6割を「もの日」で占めている。しかし、近年「もの日」狙いが増加し、価格がでないようになってきているので、今後は「もの日」に荷を集めるより、消費者の需要をどう伸ばしていくかが課題となる。

輸送については航空運賃の高騰により空輸は難しくなりつつあり、徐々に海運へシフトしている。輸入先としては、日本まで海運で3週間以内に輸送できる国(産地)がターゲットになる。

栄のもちの木広場で愛知の農産物のPR・即売を実施

名古屋市中区栄久屋大通公園のもちの木広場で、台風一過の秋晴れとなった平成19年9月8・9日の2日間開催されたふるさと全国県人会まつり(主催：全国県人会東海地区連絡協議会、読売新聞社、後援：愛知県ほか7団体)において、愛知県農産物需要拡大推進協議会(構成：愛知県、JAあいち経済連)が全国一のいちじくを始め、なし、ハウスみかん、ハウス次郎柿、トマト等本県の今が旬の果物と野菜のPRと即売を行いました。

会場では37道県人会と愛知県など3団体の40団体がそれぞれのふるさと自慢の特産品などの展示、即売を行い、2日間で親子連れや若い人たち等約10万4000人(主催者発表)が来場しました。

本県産農産物のPR活動

当日は、JAあいち知多のいちじく、ハウスみかん、JA豊橋のハウス次郎柿、JA愛知東のトマト、JAあいち中央のなしの5品目のPRと即売と併せ、おおばジュースのPRを行いました。

来場者向けの各道県人会のブースを紹介した冊子の愛知県の欄に、「全国5位の農業県、新鮮な果物や野菜」の見出しと併せて、今が旬のハウスみかんやいちじく、トマトなど、安全でおいしく、新鮮な果物や野菜の販売を掲載しました。



ステージでの本県産農産物の紹介



本県の展示・即売ブースの様子

ブースでは、ポスターの掲示と商品の紹介チラシの配布を行いました。なお、PR活動の様子は、9月9日の読売新聞の愛知版に県内産地と商品の名前とともに掲載されました。

来場者の声や要望等

いちじく

安城市を産地に挙げる方が多く、知多はあまり知られていませんでした。しかし、1日目に購入された方のなかには、「美味しかったから」と2日目にも購入された方もいらっしゃいました。

また、生産者の情報やメッセージを検索できるシステムについて記載したカードを添付し、安全・安心な青果物であることを伝えました。

ハウスみかん

販売した「みはまっこ」は、認知度が高かったが、即売価格(1個100円)が高いという意見がありました。最近の原油価格の高騰で生産者の経営も厳しいことを説明しました。

ハウス次郎柿

今年の初物ということで、珍しがられました。

トマト

30度を越える炎天下の中、氷で冷やしたトマトは、「甘くて美味しい」と好評でした。

なし(豊水)

鳥取県のブースでは、特産の20世紀梨が販売されていたが、安城産の豊水も引けをとらない人気でした。

おおばジュース(無料試飲)

おおばの持つさっぱり感が好評でした。また、レシピの配布により、「家庭で作ってみたい」との声が多くありました。

全国の特産物が立ち並ぶ中でも、地元の農産物に親しみを持つ方が多くいらっしゃいました。



本県ブースで農産物を買求める来場者

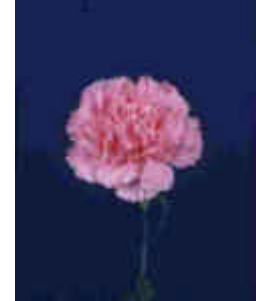


上段:ハウス次郎柿
下段左:なし(豊水)、同右:いちじく

育種への挑戦、行き着くところまでやってみたい

・カーネーションの育種のきっかけ

私がカーネーションの育種を手がけたきっかけは、昭和53年にノラの枝変を選抜し、カーネーションで愛知県で初めてカーネーション新品種として「クミコ」を昭和60年に品種登録できたことです。



クミコ

・生まれてきた花たち



キャンドル

私がこれまでに育種した品種は35品種になり、これらの品種は全国のカーネーション生産者で栽培されています。代表品種はキャンドル（黄に濃桃覆輪）、ホワイトキャンドル（白に濃桃覆輪）等のキャンドル系品種で、人気が高く、多くの生産者が導入しています。

最近の品種ではセーラームーンオレンジ（オレンジ）、ローズキャンドル（ローズピンク）があります。



セーラームーン
オレンジ

・育種家として

育種は無駄が多いです。しかし、無駄は品種がヒットするという夢につながるものと信じています。1つの種から花が咲き、いいものができる感動があります。最初は花が綺麗で人が認めてもらえる品種ができればと考えていました。その後、育種経験を積むにつれて、栽培管理が難しくなく、日本の高温多湿の条件の中で秀品率がよく生産者に受け入れやすいものを育種するようになりました。

カーネーションは、交配して品種ができるまでに3年かかります。この間に、生産能力検定、開花検定などいくつもの手間をかける大変な仕事です。私は、育種は、栽培の原点で生産側から見た交配ができること。自分の育成した品種は大事にすること。

自分の品種の欠点を栽培や次の品種改良でフォローできること。自分の交配した品種を捨てることができるか。育成した品種の欠点を厳しく見ることができること。（見極めができなくては品種育成できない。）と考えております。

最後に、農業の原点は、種から見ることです。品種が育つ過程を見届けるのは楽しいことです。オリジナル品種をもつことは、自分にとって戦略ができ、市場での差別化ができ、自分で道を開くことができます。生産農家として自分で育種を行うことは、手間が非常に掛かり大変なことで多くの生産者が取り組むことはできませんが、私は育種を続けてきて本当に良かったと思います。ここまで育種に取り組めたのは家族の理解があってこそできたのでしょう。これからもどこにも無い品種を育成したいと思います。育種への挑戦、行き着くところまでやってみたいと思っています。

愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋市中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
18年実績	397	174 (44%)	235	275	三重 (56%)
19年見通し	380	160	230		
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>4月開花期の低温により、花芽に被害があったことから着果がよくない。また、日焼け果も一部見受けられる。しかし、夏場のかんばつにより、小玉傾向で、糖度は高い。</p> <p>作付面積は前年並みだが、裏年にあたるため、入荷量は、少なかった前年をさらに下回るであろう。価格は、高かった前年をわずかに下回る見込み。</p>			<p>近年は、平核無などのような、糖度が高く果肉がやわらかい他の品種の割合が上昇しており、次郎柿のシェアが低くなっている。</p> <p>試食販売、資材の提供などの販売促進活動を通じ、歯ざわりのある次郎柿の魅力をPRしてほしい。</p>		

東京都中央卸売市場（品目：次郎柿）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		うち愛知産	
18年実績	656	551 (84%)	277	268	静岡 (14%)
19年見通し	610	-	220	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知中心に静岡などから入荷する。栽培面積はやや減少している。主産地、東三河地方での晩霜の影響から入荷量は前年をかなり下回ると見込まれている。価格については高かった前年を大幅に下回ると見込まれる。</p>			<p>毎年、入荷量の増減幅が大きい品目の1つである。出荷量が増える場合は予め量販店などへの売り込みが必要であるので、少しでも早く正確な情報を繋いでいただきたい。また、出荷にあたっては選果基準を厳選してほしい。</p>		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成17年 = 100 愛知県 平成17年 = 100				
全 国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年 4月	100.1	104.7	98.2	102.1	105.5
	5月	100.4	103.2	109.9	102.1	104.8
	6月	100.2	95.5	115.5	102.3	102.0
	7月	100.1	100.4	103.5	102.3	102.1
愛 知 県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8	103.9
	19年 4月	100.4	99.4	104.5	98.7	106.9
	5月	100.6	100.6	112.8	101.3	105.0
	6月	100.5	95.5	115.3	102.1	103.2
	7月	100.4	98.5	106.3	100.8	103.2

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	18年平均	102.9	97.8	108.2	120.6	99.0
	19年 3月	102.4	96.1	104.5	100.9	98.8
	4月	98.0	96.4	93.3	107.0	97.9
	5月	95.0	96.5	92.3	90.4	98.1
	6月	90.2	96.4	92.4	95.4	99.4
	7月	93.7	96.1	99.7	114.7	100.6

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち	キ	は	ね	レ	ば	だ	に	た	き	ト	生	り
	米 (単一品種、 「コシカ 」以外)	ャ ベ ツ	く さ い	ね ぎ	タ ス	れ い し よ	だ い こ ん	に ん じ ん	た ま ね ぎ	き ゆう り	ト マ ト	し い た け	ん(ご ぶ じ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年 4月	2,243	170	185	493	449	273	147	312	220	440	686	191	520
5月	2,251	204	168	494	477	300	146	357	204	439	544	201	557
6月	2,226	136	171	593	353	278	147	320	187	406	483	197	586
7月	2,226	179	154	609	353	253	150	308	184	496	543	200	623
品目 単位 年月	み	グ	オ	い	バ	キ	緑(せ	カ	き	バ	豚(口	牛(口	ま
	か ん	レフ ル プ ッ	レ ン ジ	ち ご	ナ ナ	ウフ イル ッ	茶ん 茶)	カ ネシ ン	き く	バ ラ	豚(口 肉 ス)	牛(口 肉 ス)	ま ぐる
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g	1 本	100g	100g	100g	100g
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年 4月	-	353	544	137	280	741	607	161	169	314	217	760	503
5月	-	337	552	139	268	754	608	177	163	315	222	783	489
6月	-	336	542	-	262	741	598	162	157	292	223	793	497
7月	-	343	525	-	261	708	627	154	158	301	221	757	505

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 412
平成19年10月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417